

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200467	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社	
事業所名	愛の家グループホーム浜松富塚(櫻ユニット・葵ユニット合同)	
所在地	静岡県浜松市中区富塚町628-1	
自己評価作成日	平成26年8月6日	評価結果市町村受理日 平成26年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2297200467-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成26年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは湖に程近く、毎年春には部屋の窓からきれいな桜を見ることができ、閑静な住宅街に位置しています。ご利用者と職員が小さな家庭菜園を作り、年間を通して季節の野菜の収穫を楽しんで頂いています。行事など、ご家族へは、毎月のお便りにてご案内、行事に参加できる時、一緒に過ごす時間を設けさせて頂いています。ご家族とご利用者が、季節を感じ楽しんで頂ける様、行事には多方面の皆様のご協力を頂いています。また、当ホームの敷地内に協力医、付近にも総合病院があり、医療面も早期対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眼下には川岸の桜並木が横たわり、スーパーや公園にもほど近い高台に事業所はあります。季節の野菜が青々と茂る畑は土作りからアドバイスを受け、台所に立ち手際よく食器洗いをこなす人、食欲のない利用者に声をかける人は職員と見紛うほどで、使命感をもって取り組む姿がそこかしこにあります。生活の中で本人が持っている力を最大限に発揮し、できない部分を支援する姿勢が賞かれ、利用者を主役とした暮らしが展開されています。福祉施設が点在するエリアで“認知症なら愛の家、と言われるケアを目指しており、開設から2年を経た現在、近隣の子どもたちが遊びに立ち寄る光景も増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念とクレドの内容についてを朝礼時に唱和し、職員間共有し、個々が念頭に置き、意識して働いている。	毎朝礼で唱和して意識づけを図っています。ユニット会議では若いリーダーが中心となり自分の対処方法が正しかったかを論じ合い、疑問点をチーム全員で解決する姿勢に、管理者は理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のボランティアによる催し等、行なって頂いている。また、ご利用者と散歩や買い物、イベントを通じて地域の方と接する機会を設けている。	近所の子ども達が遊びに来たり、和太鼓やフルーツ、マジック、懐かしのメロディー、フラダンスといった多彩なボランティアが訪れています。民生委員から地域行事の情報がもらえ、回覧板を通して事業所主催の夕涼み会へ参加を呼びかけました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域イベントへの参加を通じて、当グループホームの情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・地域包括、ご家族が2か月に1回運営推進会議にご参加して頂き、意見交換を行なっている。	併設の小規模多機能事業所と合同で定期開催が叶っています。家族にも参加を呼びかけ、議事録は家族便りで分かりやすい内容にして伝えています。防災面では災害時の避難場所として申し入れを行い受け入れ態勢を整えています。	利便性に富む好立地を活かし、多方面からの参加を呼びかけることでさらに充実した会議となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、当グループホームの情報・サービス内容を伝えている。また、定期的に訪問し、相談をさせて頂いている。	市役所福祉課には毎月足を運び、窓口では丁寧な対応がもらえています。事故報告をつつみ隠さず報告して助言を得られる良好な関係が築かれ、地域包括支援センター職員からは困難事例やケアプランにつながるアドバイスがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を厳守し、全体会議・ユニット会議で研修を重ね、ユニット内で話し合う機会も設け、全職員意識づけを行なっている。玄関等も夜間以外の施錠はしていない。また、ご利用者の所在確認と見守りの徹底をしている。	玄関施錠もなくフィジカルロックもありません。単独外出には「どこ行くの」ではなくさりげなく寄り添い、スピーチロックと受け止められる際は介入することで気づきを促しています。場を改めて会議で振り返り、適切な言葉かけについて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待についての勉強会を実施し、全職員日々虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護についての勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分な説明を行ない、意見や質問を受け、理解して頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご利用者、ご家族に意向を尋ね、毎年ご家族アンケート実施し、サービスの向上に努めている。	週末の面会が多いため意見聴取の機会として管理者はできるだけ在席し、話しやすいようリーダー、ケアマネージャーもそれぞれが要望を聴くことに努めています。担当職員の役割の明確化や職員の言葉遣いの是正といった率直な意見もあり改善に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を毎月各1回必ず行なっている。また、法人グループにて、職員アンケート実施している。また、日頃から各会議等で職員の意見聞く機会を設け、運営に生かせるように努めている。	美化、イベント、研修委員会ではそれぞれ趣味活動のアイデアや物品購入、福祉用具利用に活発な意見があがっています。利用者の笑顔のためにも、管理者は職員がやりたいことへの採用を惜しみません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価を年1回実施し、定期的に面談も実施し、ユニットリーダー・ホーム長から個別指導を行なっている。また、職員と話しやすい環境作り、随時意見・相談を受け付ける職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、内部研修を実施している。また、新入職員にはチェックリストを使用し、職員の教育を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	責任者は近隣の同業者への見学や話し合いを定期的に行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時、職員とホーム長が直接ご本人にお会いして、アセスメントやご家族から情報収集に努め、ご本人とご家族の意向に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居時相談の段階から、相談を重ね、入居後、ご家族と細目に連絡を取り、面会時に詳細に状況を伝えるよう努め、ご意見、要望等を聞きつつ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や、ご家族の要望を十分に理解して、必要なサービスを職員全員で話し合い、適切なサービス内容を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・料理・買い物を手伝って頂いたり、ご本人が得意な手芸・知識を教えて頂く等、職員と共有できることを大切し、良い関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をお伝えしたり、受診の相談や依頼等行なっている。また、毎月1回のご家族便りにご本人の写真・行事案内を含め、家族の協力の必要性・重要性を都度お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所への散歩やドライブ等、また、通い慣れた病院等への通院を継続することで、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、これまでの生活を大切にしたいサポートに心がけている。	自宅近くのスーパー、かかりつけ医への受診といった馴染みの場所を生活歴から探り、定期的に訪ねることで安心感に繋がっています。ピアノを弾く人に楽譜を購入したり、編み物好きな人には毛糸を用意し、在宅からの楽しみが続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係作りを大切にし、日々の散歩・体操・買い物等、活動時2から3人単位で参加して頂く等、ご利用者同士が関わり、支え合えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居されたご利用者には面会等行なっている。また、ご家族への電話連絡で経過フォローや相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や日常のさりげない会話の中から意向を十分に把握に努め、アセスメント表にて職員間で共有し、プランを作成している。	事業所独自の『状況確認・発見シート』は書き込み欄の工夫により、利用者の写真を中心に生活史や要望、好きな活動が一目瞭然です。意欲低下で寝たきりの人に、ファンだった劇団のDVD鑑賞へ誘うことで歩行可能となった例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントで生活歴を十分に把握できるよう努めている。また、入居後もご本人や、家族、面会の友人等からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や、介護記録、申し送りノート、バイタルチェック表、水分量チェック表等活用し、現状の把握と情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。参加が難しいご家族に対して、面会時や、電話にてご意見を頂いている。気づきシートを使用して、定期的に計画作りに努めている。	現場の課題は気づきシートに記載し、これを基にリーダーとケアマネージャーがプラン作成しています。担当職員は目標期間ごとに評価を行い、現状に即した計画へと繋げています。ADL向上に専門家の視点として訪問リハビリも取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や、介護記録、申し送りノート、バイタルチェック表、水分量チェック表等活用し、朝夕礼にて申し送りして情報共有に努めている。また、毎月必ずユニット会議でご利用者のケア方法に対して見直しを行ない、個別対応を協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応する方法を、職員全員で常に検討し、ケアプランに反映、実践している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームの裏の公園や近所のスーパー、車で湖周辺等へ出掛ける等、季節感を感じて頂いたり、買い物等での楽しみを感じて頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの敷地に隣設している協力医やご家族の協力を得ながら、通院介助を行なっている。また、以前からの馴染みのかかりつけ医への受診対応も行なっている。	馴染みの関係を重視し専門医をかかりつけ医としている人もいますが、目の前にあり受診にも便利なことからほとんどが協力医に変更しています。かかりつけ医への受診は家族にお願いしていますが、無理な場合は職員が付き添っています。歯科医の訪問診療もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては、直接雇用の看護師に相談し、情報の共有をしながら、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	都度医療関係者と相談に努めている。また、往診医と連絡体制等、協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族と相談し、状態の変化に対応できるよう努めている。地域の医療施設等関係者とも相談しながら支援している。	実績はありませんが、家族から慣れ親しんだ場所で看取ってほしいとの要望もあって職員の意識が高まっており、勉強会の予定もあります。協力医には看取りへの理解を得ており、本人や家族の想いを汲んで最後までその人らしいあり方を検討する方向にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・吸引ノズルの使用方法について職員が学ぶ機会を設けている。今後、訓練については定期的に関催していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行なっている。災害時の対応についても内部研修で学習している。災害時の地域避難場所としての申入れも行なっており、体制を徐々に整えている。	消防署職員の立ち合いも計画されマニュアル通りの訓練ですが、様々な場面を想定しての実施を目指しています。有事の際は事業所から近い職員が駆けつける段取りができており新人職員もAEDの使い方を学んでいます。備蓄は3日分が確保されています。	地域防災訓練への参加をはじめ協力体制の構築を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー等、勉強会を通じて、常に意識できるように話し合っている。	身だしなみチェックシートは個人の意識を高め管理者もチェックしています。ホテルマンだった職員からホスピタリティを学んだり、両親を介護してきた職員の経験談から尊厳について話し合ったりとお互いを高め合う人材が揃っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや、傾聴にてご本人の要望を聞きながら、分かりやすく選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在の状況を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、散髪時の髪型、飲み物の選択等、出来る範囲で希望を伺うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に掛付け食材を選んで頂いたり、テーブル拭き、おしぼり作り、盛り付け、後片づけ等出来る範囲で、ご利用者に参加して頂けるよう支援している。	食前、食後も活き活きと台所に立つ人や食器拭きに精を出す人は職員と見紛う程です。利用者との手作りテーブルクロスで食卓の雰囲気も和み、ユニット調理では家事に無縁だった男性利用者も巻き込んで関係作りを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用しながら、個々の状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて声かけ支援し、口腔の清潔保持に努めている。また、訪問歯科を利用し、定期的に医師から治療・助言を頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の習慣・排泄パターンを把握している。日中は声掛け誘導している。夜間帯は声掛け誘導や睡眠優先等個別に対応している。	ズボンに手をかける、そわそわするといった個々の排泄のサインを見極めて失敗を減らし、ベッド上での交換だった人も徐々にトイレでの排泄を試みて自立に繋がった例もあります。夜間は本人が目覚めた時の誘導で安眠優先としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・活動の促しを中心に、下剤の使用は最小限とし、個々の体調に応じた援助を行っている。排便作用のあるお茶を活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に声かけし希望やご本人の体調に応じた支援をしている。入浴中は個々に合った会話を楽しんで頂けるよう心掛けている。	一人ひとり湯を張り替え、朝や夜間の入浴希望にも添っています。週3回をめやすとし、入浴拒否にも「目に湯が入るのが嫌い」「服を脱ぐと寒い」といった理由を突き詰めて解決策を模索しています。シャンプー類も好みの物に合わせて準備しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々に合った活動をお誘いして、生活リズムを整え、夜間睡眠を十分に確保できるよう援助している。また、室内は家に近い環境作りを心掛け、慣れた環境で安眠できるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルや薬剤録を活用し、内服前に必ず職員2人で確認し、確実に内服できるよう支援している。また、服薬内容、副作用、注意点は周知できるよう申し送りを行ない、経過観察しながら服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を十分に認識し、個々が出来る事等、職員が日々話し合い、アイデアを出し合い、支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物は毎日お誘いし、1カ月1回ドライブに行く機会を作って、外出支援を行っている。また、ご家族が面会に来られる際、散歩やドライブに同伴している。	男性は川沿いの桜並木、女性はスーパーと公園の散歩コースが好まれています。利用者の望みに応じた買い物やドライブ、家族との外食や外泊を心待ちにする人もあり、地域のお祭りやお花見といった季節を感じられる外出を実施しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数ではあるが、ご本人で希望でお金の所持をして、買い物支援をしている。また、個々の能力・希望に応じて買い物時の支払いをご本人に行なって頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は手紙・電話等でやり取りが出来るよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの掲示物や飾りは季節感・生活感を取り入れた空間作りを心掛けている。また、共用空間がご利用者が不快・混乱にならないように配慮している。	清潔感のある白い壁に水墨画や編み物、折り紙の自信作が光ります。敢えて作られた死角には応接間のような設えが施され利用者同士がゆったりくつろげるスペースとなっています。照明スイッチ認識にワンポイントの切り絵が一役買っていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやエントランスにソファや畳を配置して、居心地がいい場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により、ご本人が馴染みの物品を出来る限り持ち込んで頂いて、居心地よく過ごせる居室作りを配慮している。	冷蔵庫やセンターラグ、エピソードが詰まったアルバムや孫のメッセージ、扉を開けるとその人が思い描けるほど心が込められた居室作りが成されています。置き畳が敷き詰められた居室には、心を落ち着かせるい草の香りが漂っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレ等、案内表示等工夫しつつ、ご本人が自立した生活が送れるように支援している。		